

地域特産化をめざした一枚貝 垂下養殖技術を開発

アサリは重要な水産資源です。埋め立てなどによる干潟の減少や、アサリを食べる生物の増加などにより、近年その漁獲量が大きく減少しています。そこで、アサリを増やすために、種苗を安定して大量に集める技術や、その養殖技術の開発に取り組んでいます。

種苗を集める方法を開発

アサリは干潟の砂にいるイメージがあると思いますが、磯の潮だまりの砂利から見つかることもあり、育つ場所として必ずしも砂が必要なわけではありません。

カキ殻を加工して固めたカキ殻加工固形物の利用を調べている中で、これと砂利とを混ぜて網袋に入れて干潟に置くことで、その中にアサリが入り、成長するこ

とが分かりました。この袋を設置する場所や時期などを、それぞれの地域の状況に合わせることで、効率よくアサリ種苗を集めることが可能になりました。

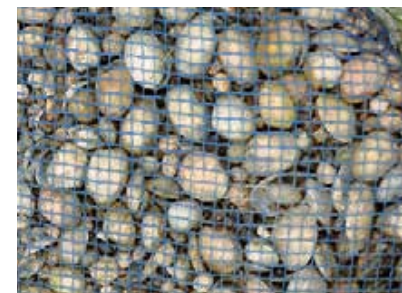
とが分かりました。

カキ殻を加工して固めたカキ殻加工固形物の利用を調べて

この袋を設置する場所や時期などを、それぞれの地域の状況に合わせることで、

効率的にアサリ種苗を集めることが可能になりました。

効率よくアサリ種苗を集めることが可能になりました。



干潟にいるアサリの数倍～数十倍の高い密度で種苗を確保可能



カキ殻加工固形物 + 砂利
カキ殻を砕いた粉末に製塩の副産物の水酸化マグネシウムを混ぜて水で練って丸め、乾燥させて固めたもの



全国20道県にこの方法が普及

養殖方法を開発

集めた種苗を用いて養殖を行います。アサリを入れる容器はコンテナや丸カゴが利用できることと、アサリの収容密度やつり下げの深さ、筏の設置場所などで成長に差が出ることを明らかにしました。このことから、養殖を行う場所ごとに、最適な条件を見つけていく必要があります。

養殖方法の検証

垂下養殖は干潟よりもよく育ち、大きさは干潟の1.8倍、重さは2.5倍になることが確認できました。また、養殖アサリが成熟・産卵することで、資源の回復にも役立つことが分かりました。これらの成果は、採算性の向上をめざし、さらなる技術の研究・開発も進めていきます。

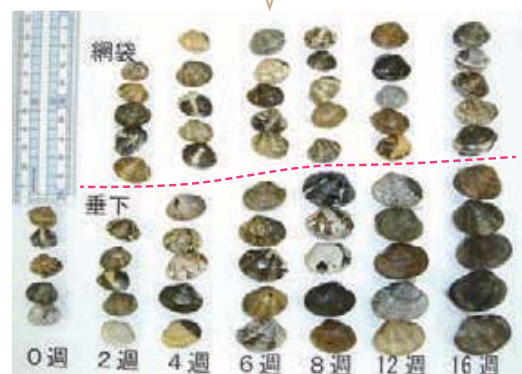


コンテナ(左)や丸カゴ(右)に砂利とカキ殻固形物を詰めてアサリ稚貝を入れます



コンテナや丸カゴは、筏(左)のほかにロープ(右)からつり下げることができます

垂下養殖にすると、海水中の植物プランクトンをたくさん食べることができるので、よく育ちます



網袋に入れて干潟に置いたアサリ(上段)と垂下養殖のアサリ(下段)の比較